

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

パレスチナ：ファタハとハマースの政治協議

1月6日、ガザのハニーヤ「首相」は、記者会見で、2007年の衝突の後、ガザから避難したファタハのメンバーは自由にガザに戻れると発言した。さらに同「首相」は、拘束中のファタハのメンバーを解放すると述べた。ハニーヤ「首相」は、同日夜、PAのアッバース大統領に電話をして新しい措置について説明し、両者は国民和解を進展させることで合意したと報道された。翌7日、ガザ政府の内相は、数日中に、拘留中のファタハ・メンバーを解放すると述べ、翌8日、ファタハ活動家8人を釈放した。7日には、ハマースとの和解協議を担当するファタハ中央委員のアッザーム・アフマドが、近くファタハ代表団を率いてガザを訪問すると報道された。同日、イスラエルとの交渉メンバーだったムハンマド・シュタイエーが、自分とアッザーム・アフマドは、2週間前にカタルのドーハでハマースのミシュアル政治局長と会談し、国民和解について協議していたと述べている。

ガザのハマースと西岸のファタハは、国民和解を進め、選挙を行うことで合意しているが、履行がなされていない。両者は、2013年5月に8月までに選挙を行うための暫定内閣を創設することで合意したが実現しなかった。ただ今回は、ハマースをめぐる状況が大きく変化している。ガザのハマースは、7月のエジプト政変によりムルシー政権の支援を失った。さらにエジプト軍と暫定政権は、ハマースに対する敵視政策を取り、ガザ境界にある密輸用トンネルの大部分を破壊し、ガザからエジプトへの人の移動を厳しく規制した。その結果、ガザのハマースは、これまでにない経済的苦境に直面している。

ハマースは、2013年10月頃から、ファタハとの政治対話に再び前向きな姿勢を見せていた。10月9日、ハマースは、統一したイスラエル戦略を協議するための会合をファタハに呼びかけた。15日には、犠牲祭に際して、ハニーヤ「首相」がアッバース大統領に電話をして国民和解の進展を求めている。しかし、その後特段の動きはなく、12月6日と7日には、アッザーム・アフマドがカタルのドーハでミシュアル政治局長と会談したと報道されていた。

ハマースは、経済的苦境を理由に2013年12月1日のハマース創設記念日の式典を中止した。ハマースは、こうした経済的苦境、政治的孤立から抜け出すために、ファタハとの和解を進めるかもしれない。またパレスチナ人は、ガザ住民の困窮は、アッバース大統領の責任でもあると思っているだろう。

(中島主席研究員)